

2023年1月4日

2023年 社長年頭挨拶

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、年頭挨拶として、社長から全役職員に向け、メッセージを送りました。社長メッセージのあらまきは以下のとおりです。

1. 新たな年を迎えるにあたって

- ・ 2023年は、3カ年プログラム「MY Mutual^(注1) Way I期」の最終年度にあたる年。10年後（2030年）にめざす姿「『ひとに健康を、まちに元気を。』最も身近なリーディング生保へ」への軌道を確認する「フェーズチェンジ」の実現に向け、決意を新たにしている。

2. 「MYリンクコーディネーター元年」を迎えるなど、将来に向けた取組みが前進

- ・ 2022年は、世界が一変するような出来事がいくつも起こった、まさに大激動の1年だった。まずは、2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻。現代においてまた大きな戦争が始まり、未だ収束の兆しが見えていない状況である。
- ・ 加えて、新型コロナウイルス感染症は拡大と収束を繰り返し、6月からの第7波では、オミクロン株が猛威をふるい、一日あたりの感染者数が一時26万人以上にまで急拡大した。
- ・ このような環境下で、会社全体としてはさまざまな取組みが前進した1年であった。なかでも、新たな営業職員制度である「MYリンクコーディネーター（営業職員）制度」がスタートし、まさに「MYリンクコーディネーター元年」を迎えたことは、当社の将来にとって大きな分岐点といえる。
- ・ これからは、「ひと」と「ひと」、「ひと」と「地域社会」の絆を紡ぐといった使命・理念を、いっそう具体的な取組みとして進化させるフェーズに入るが、まずは順調なスタートが切れたと考えている。お客さま満足度の調査結果が過去最高値を更新したことはその証左であり、改めて感謝する。

【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

明治安田生命保険相互会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1

ひとに健康を、まちに元気を。



3. 現中期経営計画を完遂するとともに、未来に向けた新たな航路を開拓する年に

- ・ 迎えた2023年、従業員にお願いしたいことが二点ある。
- ・ 一点目は、現中期経営計画の「完遂」。2023年の干支「癸卯（みずのと・う）」は、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し、飛躍する年になると言われており、まさに現中期経営計画の最終年度として、成長を実現し、飛躍するにふさわしい年であると言える。
- ・ 経営目標の達成といった、定量的な「経済的価値」の向上も当然、重要であるが、対面と非対面を融合した営業モデルの確立や、制度・インフラの抜本的な見直しといったフェーズチェンジに向けた態勢整備、そしてMYリンクコーディネーター等（営業職員）によるコミュニティワーカー活動、2「大」プロジェクトによる「社会的価値」の向上、これらも等しく重要である。
- ・ 現中期経営計画を終え、私たちの取組みを振り返ったとき、「経済的価値」と「社会的価値」の双方を大切にし、かつ、それらを好循環させていくことができるのだと、全MYリンクコーディネーター等・役職員が確信し、「たしかにフェーズが変わった」と達成感を共有できるよう、一丸となって取り組んでいこう。
- ・ 二点目は、未来に向けた「新たな航路の開拓」、つまり、現中期経営計画で「フェーズチェンジ」を成し遂げた後の、次期中期経営計画における「飛躍」に向けた準備。
- ・ お客さまの価値観が多様化し、デジタル化が急速に進展するなど、変化が激しい環境下で当社がお客さまに選ばれ続けるためには、我々の「羅針盤」である「明治安田フィロソフィー」を大切にするだけでなく、この想いに共感いただける、お客さま、企業・団体、自治体等の仲間との「共創」を通じて、「多元的価値」を創造していくことが不可欠である。
- ・ 「多元的価値」は、貨幣的な価値に換算できる経済的な価値に留まらず、健康、地域、絆、幸せといった社会的価値を含む概念であり、相互会社である私たちは「多元的価値」の創造を力強く先導できると信じている。
- ・ 「共創」については、近年、各地域で「エコシステム」が次々と立ち上がりつつある。「エコシステム」や地域ごとの連携の取組みは、明治安田生命が地方自治体等との連携協定をベースにしながら、Jリーグとともにすでに取り組んでいることであり、各地域の協力・統合の旗印として、地元Jクラブの存在はたいへん大きなもの。そして、大切なJリーグとのパートナーシップは、今年いよいよ10年目を迎える。

- ・ 2023年シーズンは「奈良クラブ」と「FC大阪」が昇格し、全60クラブで開幕する。当社は全クラブ、一つひとつをスポンサードしており、Jリーグと60のクラブ、そしてJリーグ参入をめざす地元のクラブは、まさに地域創生の志を共有する仲間である。地域ごとに抱える課題は千差万別であるが、全国の地域に根差した明治安田生命とJリーグだからこそ、課題解決の支援として役に立てることがたくさんあるはずだ。日本赤十字社と提携し、全国で献血イベントを行なうなど、新たな取り組みも本格化していく。
- ・ 支社・法人部、全社を挙げてそれぞれの地域ごとに当社ができることを考え、協働の取り組みをさらに広げていく必要があり、まさにこれからは「みんなの健活プロジェクト^(注2)」「地元の元気プロジェクト^(注3)」の2「大」プロジェクトが真価を発揮する時代である。格差と分断が拡大するなか、私たちが共感と絆を紡ぎ、持続可能な社会づくりに貢献することが、いっそう求められると考えている。
- ・ 未来に向けた「新たな航路の開拓」。次期中期経営計画における「飛躍」に向けた準備を一緒に進めていこう。

4. おわりに

- ・ 現中期経営計画を完遂し、迎える2024年には明治安田生命の発足20周年という大きな節目を迎える。この大きな節目を現中期経営計画における経営目標等の達成と、「10年後（2030年）にめざす姿」の実現に向けた「フェーズチェンジ」の双方をやり遂げることで、次期中期経営計画の絶好のスタートを切れるよう、全員で一丸となって進んでいこう。

(注1) Mutual は「相互の」という意味であり、保険会社のみ認められている特別な会社形態「相互会社」も意味しています。相互会社は、ご契約者（社員）が会社の構成員であることから、ご契約者の利益を最優先とした長期安定的な経営が可能となると考えています

(注2) 「人生100年時代」を迎え、健康寿命の延伸に対するニーズが高まっているなか、当社が「商品・サービス・アクション」の3つの分野で、「お客さま・地域社会・働く仲間（当社従業員）」の継続的な健康増進を応援する取り組み
プロジェクト詳細：<https://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ld/kenkatsu/>

(注3) 地元がいつまでも活気あふれる場所であるように、「つながり」や「ふれあい」、「ささえあい」の機会をお届けし、持続的な発展を支援する取り組み
プロジェクト詳細：<https://www.meijiyasuda.co.jp/brand/ld/jimotonogenki/>

以 上